

かわむら クリニックNEWS

Volume 22 No 4

249号

平成26年 4月 3日

かわむらこどもクリニック 022-271-5255

HOME PAGE <http://www.kodomo-clinic.or.jp/>

東日本大震災から3年

- 止ったままの時計 -

院長

3月11日で、東日本大震災から3年目を迎えました。思いを新たに、震災と復興について考えてみたいと思います。

はじめに、震災で被災された方へのお見舞いとともに、亡くなられた方のご冥福を心よりお祈り申し上げます。加えて、復興支援へのご協力、お心遣いを頂いた方々のご厚情に感謝申し上げます。

この地震は東北地方太平洋沖地震と呼ばれ、マグニチュード9、岩手県沖から茨城県沖までがすべてが震源域でした。地震と津波による大きな被害は東日本大震災と称され、死者・行方不明者は18,517人となっています(2014年3月10日:警視庁)。地震の規模だけでなく、被害の規模は歴史上最も大きなものでした。避難者は最高で26万人を越え、未だに不自由な生活を強いられている方がたくさんいます。

震災の記事を引用して、当時を振り返ってみましょう。“3月11日(金)14:46 予防接種の最中に、突然の轟音(聞こえたような気が)と、とてつもない大きな揺れが。あまりの大きさに覚えてないけど、時間も長く、立ってられないほど。患者さんたちの大きな悲鳴も飛び交う状況。たまたまクリニックにいた4組の家族とともに、スタッフは抱きあいながら余震のなかで冷静に対応...”。今でも思い出だけで、ぞっとする思いです。地震の特徴は何と言っても、その長さでした。まして地震を感じてから最大震度まで30秒もあり、仙台市では3分程度の大きな揺れが続きました。やっと地震の揺れが収まり、予防接種に来ていた患者さんとともに、笑顔でピースサインの写真を撮ったことを思い出します。しかし、その裏想像もできないような津波が押し寄せてくることを知る由もありませんでした。停電だけでなく、情報が遮断され、時に車のテレビを通して流れてくる被災の状況を見るたびに、現実とは思えない不思議な感覚とともに涙が溢れるばかりでした。何はともあれ、小児科医としての使命を果たすため、避難所巡回、そして救護所への出務、更には長年取り組んできた情報発信に努めました。災害時における情報発信の重要性は以前から認識し、停電にもかかわらず震災後30分でTwitter、1.5時間にはBlogで

情報発信しました。さらに、早期診療再開も重要と考え、断水の中3日目に再開に漕ぎ着けました。再開後はMail Newsを通して患者さんとコンタクトがとれ、放射線等に関する情報を発信できただけでなく、多数の激励や心配メールを頂きました。心配メールは海外赴任、北海道転居の患者さんから頂き、かかりつけ患者さんのありがたさとコミュニケーションの重要性を再認識しました。

仙台小児科医会では震災後“子どものこころのケア”を目的に、仙台市と協力して、幼児健診で問診票を使用してトラウマの評価と事後指導を行っています。仙台小児科医の会長としても、微力ながら子どもたちだけでなく保護者の支援のために活動していることを少しだけ付け加えておきます。

東日本大震災から3年を迎えました。長かったような短かったような3年。クリニックの周囲では、震災を思い出すものさえ無く、一見平穏な生活に戻っているように見えます。しかしながら、被災地を抱え未だに避難生活を余儀なくされている地域では、様々な問題が山積して、復興とはほど遠い状況です。更には、福島県では目には見えない放射能の影響で、未来さえ見えない状況です。

友人が来仙した時には被災地に足を伸ばしてもらい、先日も荒浜から閑上まで案内してきました。遠目には何もないように見える風景も、近付いてみる草に隠れたコンクリートの土台、そして子どもたちの笑い声が聞こえない小学校、慰霊塔に供えられたおもちゃ、悲しみを宿した深い爪痕が隠れています。海から吹いてくる風でさえ、悲しみと怒りをまとっているように感じ、日和山からの風景は見るたびに目頭が熱くなります。気仙沼の墓参りの帰りに、南三陸町に足を伸ばしてみました。防災対策庁舎の悲劇もあり、足を運ぶことにためらいがありました。やっと通った国道45号線のいたるところに津波浸水の案内板。JR気仙沼線の清水浜駅では、20mの高架橋線路が流され、波を受けた駅舎は廃墟となり海岸線を走る気仙沼線の美しい眺望は失われたままです。被災地はどこも、2011.3.11からの時間が止まっているようでした。

3年を経過し、復興のために何ができるかを考えながら、新たな気持ちで取り組んでいきます。皆さんも、更なる支援をよろしくお願いいたします。

何もできないという思いの人もたくさんいるでしょう。でも何もしなくてもいい。何もできなくても大丈夫です。被災地、被災者のことを考えるだけ、思うだけ、そして“忘れないこと”が最も大事な復興支援となるのかも知れません。(二面には被災地の写真も)



4月のお知らせ

- ・午後休診 4月5日(土) 午後休診
新任校医研修会講師のため
- ・東北大医学部学生実習 4月11日(金) ご協力!
- ・栄養育児相談 9日、23日(水) 13:30~
栄養士担当 参加無料

3.11で東日本大震災から3年 “震災を忘れない!”
『がんばろう! 宮城 がんばろう! 日本』 復興支援をこれからも!

読者の広場

先月は11通のメールを頂きました。医療相談やプライバシーにかかわることが多かったので、薬局で起きたちょっとびっくりするような出来事をご紹介します。万が一のことを考え迷惑が及ぶことを避けるため匿名にしました。

「先程は、親子共々診察していただき、ありがとうございました。今回は、私の異変にも気づいてくださり、迅速な対応をしていただいて...お陰様で、軽く済む事ができています。今日、診察後、薬局へ行った際、思いもよらず驚愕が場に立ち会ってしまいました。お母様も体調が悪かったようですが、あまりよい口調じゃないな...とかんじたら、「何で言わなきゃいけないの!!ニ×△□...!?!?!(怒)」そして、何度も謝罪をさせていました。幸いに薬局には子供連れの方はいませんでした。ただ、怒っているお母様の胸にはお子さんが抱っこされていました。お母様も体調悪いとおっしゃってましたが、かなりの罵声...お子さんはじっとお母様を見ていました。おばあ様(?)でしょうか...怒鳴っているお母様のとなりで、何度も何度も頭を下げて申し訳なさそうな顔をしていましたが...お帰りになって、私の番になり処方を受けていると、再度来店され罵声の続き...そしてお帰りになられて...怒りがおさまらなかつたのでしょうか、また来店され「個人情報返して!!」「個人情報がないとお薬は、」「何でそういう意地悪言つもの!!」と。いつも親切に対応してくださるスタッフの方が多分初めて(?)の方に罵倒されて...本当にお気の毒でした。此のご時世、色々な方がいるとはわかっていても...小児科に来るといことは、お子さんの体調が心配で受診したと思うのですが...自分の体調が悪くても子供の体調は心配ですよ...先生や看護師さん薬剤師さんの言葉を聞き落とさないようにと思ってしまうのですが、先程の方は具合悪いからしゃべりたくない、聞きたくない、紙に書いて渡せば後で読む...。薬局での出来事でしたが、初めての光景に私も動揺してしまい、先生へメールをしてしまいました。お忙しい時期に、独り言のようなメールを読んで下さり、ありがとうございました。」



薬局で事実関係を確認したあと返事をしました。「メールありがとう。いやあびっくりしました。状況を薬局で確認しましたが、かなりキレてたみたいですね。〇〇さんのメールからも、普通の人じゃないと判断しました。多くの人は、お互いの善意を信じながら暮らしているのですが、時には常識が通じない方もいます。こちらの常識と、相手の常識が一致しないこともあるので。」「いつも親切に対応してくださるスタッフの方が多分初めて(?)の方に罵倒されて...本当にお気の毒でした。」と聞けば安心できると思います。ありがとうございました。」

そして返信をいただきました。「お忙しい中、御返事いただきありがとうございます。多少の修羅場(?)には動じないのですが、穏やかな薬局での突然の出来事に、部外者であろう私も心苦しくなり、動揺してしまいました。今日は震災から3年...学校でも黙祷を捧げてきたそうです。つい薄れてしまう日常、今があることを感謝して、過ごしたいと思えます。」。ちょうど震災の日、その日に一面記事に関係したメールをもらえるのも偶然というか必然と感じてしまいます。



関上日和山からの風景
(2014.3.16)

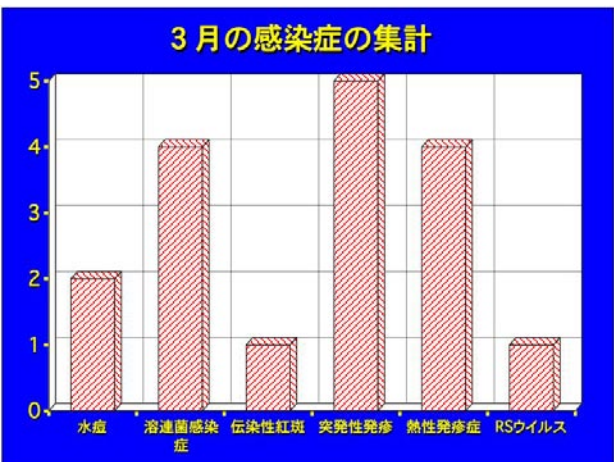


廃墟となった清水浜駅
(2014.3.23)

普通では想像ができない状況です。親御さんも体調が悪かったことも、拍車をかけたのでしょうか。ただ、どうしても許せないことがあります。それは「子どもを抱っこしたまま」というところです。子どもは親を見て成長していくのです。見せなくて済むものは見せたくありません。メールを紹介した意味は、こんな事実を報告してくれたことです。このご時世、見て見ぬふりをする人が多いものです。逆にわざわざ報告してくれたのは、クリニックと繋がりが深く、コミュニケーションがとれている患者さんです。他にも様々な報告等を頂くことは、クリニックにとってとてもありがたいものです。

自費料金の改定について

4月からからの消費税8%増税に合わせて、自費診療分(任意予防接種、健診、血液型検査等)が変わります。診断書等(材料が必要な物)は据置です。尚、定期接種および健診は従来通り無料です。



特別流行している感染症はありません。グラフには示していませんが、インフルエンザが前月172人から140人に減りました。B型優位の混合の流行です。詳細は1月号記事「インフルエンザ雑感2014」を参考に。インフルエンザ情報はMail News, Twitter, F.Bページ等で毎週提供しています。全国的には明らかに減少傾向ですが、仙台ではもう少し流行が続きそうです。感染性胃腸炎は一旦減少しましたが横ばいです。

Mail News, Twitter, Blog, Facebook の紹介

Mail News は、440人を越えるお母さんが登録。右上のQRコードから登録できます。件名を「登録希望」とし、登録者の名前とお子さんの名前を記載し送信してください。

新しい情報発信としてTwitter、Blog「子どもクリニック四方山話」、Facebookページ、YouTubeにも取り組んでいます。子育て、医学、趣味、グルメ、旅行記等のおもしろい話題満載。見るだけでも楽しいかもしれません。是非ご覧ください!

Mail Newsかなり戻ってきます。届かない場合はkodomoclinic.or.jpをドメイン指定して下さい。



MailNews



Twitter



Facebook



Blog

編集後記

震災から3年が経ち、クリニック周辺では忘れ去られているかのようです。今回記事を書きながら、当時のことを思い出しました。記憶というのは時とともに薄れていくようになっていきます。しかし、何かの機会に甦るようになってきているのが、人間の脳の仕組みなのです。それが病的に反応するのがPTSD(心的外傷後ストレス障害)です。そんなことも含めて、まだまだ震災の傷が充分癒されていないのが現状でしょう。



K's clinic

麻しん風しんゼロ作戦キャンペーン 『1才のお誕生日にMRワクチンを!!』
『お母さんクラブ』現在会員を募集中です。参加希望は受付まで。